

平成25年度 授業改善推進プラン 【図画工作】

谷戸第二小学校

1 日常の学習における課題分析

<関心・意欲・態度>

どの学年も造形表現活動を楽しみ進んで取り組む姿がある。表現を深め活動に集中する児童のいる中、なかなか自分の納得のいく表現までたどり着かない児童もいる。

<発想や構想の能力>

表したいことを、感じたことや材料から思いつきつくり進めていく中で、自信をもって自分のイメージをもつことが難しいと感じられる児童もいる。

<創造的な技能>

自分の資質能力、今まで学習したことを生かした表現を、さらに深めようとする意識の少ない児童がいる。

材料・用具の扱いが粗雑なところが見られる。

<鑑賞の能力>

親しみをもって造形作品に触れ、友達の作品や活動のよいところや楽しさに気付くことができる児童は多いが、その思いを素直に表現することが苦手な児童もいる。

2 授業改善の方策 一体の感覚と言語活動を大切にしながら

・ <関心・意欲・態度>

児童の興味・関心・意欲が表現活動の中で充実、長続きするような題材の導入・表現材料を児童の実態にあわせて提案することができるように各学年の指導計画を作成する。

・ <発想や構想の能力>

作品を描いたりつくったりする時の想像力を豊かにするために、**各々の児童の実体験を大切に**し、**また直接体験を増やすようにする**。友達とのコミュニケーション（言語活動の活性化）から**発想が広がり、表現能力が一層働くような展開を授業の中で組み入れる**。

・ <創造的な技能>

創造的な技能は各々の学年の実態に応じて、**材料・用具体験を充実していくこと**で児童が選択し自らの思いを表現する際に感覚を生かすことができると考える。**指導計画の中に体の感覚を十分に生かしていることが実感できるものを組み入れる**。

・ <鑑賞の能力>

日常的にも自他の作品を鑑賞する機会をつくり、具体的に色・形・感じたこと等を伝えあうことを通して、**自他の思いを知り、認め、共有することを大切に育てる**。

3 活用につながる指導

- ・ 各自の表現活動が充実するように、休み時間、放課後等の対応に努め支援する。
- ・ 鑑賞学習も日常的に交流できるように感想や思いを書き入れるメッセージカードの活用などを考える。
- ・ 主体的に課題に取り組めるように発展的な学習としてさまざまな題材（ポスター募集など含む）をストックし紹介する。